

## 次に、第2の柱

『ふるさとを愛する豊かな心づくり』についてであります。

本市のもつ豊かな自然や歴史・文化、そして多くの地域資源について、市民の皆さんが誇りと愛着を持てるよう、地域と連携し、学校教育・社会教育を推進してまいります。

**教育の魅力化**につきましては、子どもたちが自分自身の夢を描き、その夢に向かって成長していける、未来志向の教育に力を入れてまいります。

特に、夢を実現するための土台となる学力につきましては、県教育委員会の強力なバックアップを得て、県立大学や松江高専等の教育機関から講師を招き、授業づくりの指導・研究を充実するほか、国立三瓶青少年交流の家や県立三瓶自然館「サヒメル」といった地元の教育施設が持つノウハウやデジタル教育機器を活用した学習を積極的に取り入れるなど、従来とは異なるアプローチにより取り組みを進めてまいります。

新たに設置します「**おおだ教育魅力化推進会議**」においては、大学教授、企業人や文化人など、多種多様な立場の方々にご参集いただき、教育分野における、子どもも大人もわくわくするような夢を語っていただくとともに、取り組み可能なものから実践につなげてまいります。

また、地域に根差した学校運営・学校教育を地域の皆さんとともに考えていく場として、「学校運営協議会」等を、市内すべての小中学校及び高校において新年度中に設置いたします。本組織と学校が緊密な連携を図り、一貫した協働体制の中で「ふるさと教育」、「キャリア教育」等について推進してまいります。

**教職員の働き方改革**につきましては、時間外勤務や業務量、職場での人間関係などについて、学校現場の声に耳を傾け、対話を重ねながら、実態に応じた教職員のメンタルヘルス対策、スクールサポートスタッフ等の配置による業務量の削減に取

り組んでまいります。

**教育機会の確保・教育環境の充実**につきましては、特別な支援を必要とするケースのなかでも、特に近年、課題となっている外国にルーツを持つ児童の対応として、新たに日本語指導支援員を配置し、児童が学校生活や授業等にスムーズに溶けこめるよう支援してまいります。

また、「幼児期通級教室」をはじめ、幼児期における様々な課題に対し、幼児教育と子育て支援とのいっそうの連携を図り、きめ細やかな対応に努めてまいります。

**小中学校の再編**につきましては、令和5年春に池田小学校を川合小学校へ統合する準備を進めてまいります。

また、近年の急激な出生数の減少を踏まえ、令和2年度に策定した「学校のあり方に関する実施計画」に掲げている「学校再編の考え方」の見直しに着手いたします。

**社会教育の推進**につきましては、新年度から、地域の社会教育をまちづくりセンターが担い、教育委員会に新たに設置する「社会教育推進センター」がそれをサポートすることとしております。公民館は廃止しますが、行政部局と教育委員会の連携により、市民主体の社会教育活動を支援してまいります。

**スポーツ活動の推進**につきましては、スポーツ参加人口が減少する中、競技団体の育成や市民スポーツの参加支援をどう進めていくか、そのための大田市体育協会や関係団体のあり方などを総合的に検討してまいります。

**図書館活動**につきましては、大田中央図書館の照明や回廊の大規模改修事業が終了しました。これを機に「図書館まつり」といった魅力的な行事を新たに開催するなど、市民の皆さんがこれまで以上に利用したくなるよう、取り組みを進めてまいります。

世界遺産・日本遺産につきましては、本市を代表する歴史・文化資源であります。貴重な文化財等の適切な保全に努めるとともに、積極的な活用を図り、魅力と活力のある地域づくりにつなげてまいります。

特に、本年は石見銀山遺跡世界遺産登録15周年を迎えることから、県や石見銀山協働会議と連携し、地元をはじめ、市民・行政による遺跡の保全、活用の取り組みを発信するとともに、世界遺産としての石見銀山遺跡のあるべき姿について、議論を深めてまいります。

また、龍源寺間歩の見学ルートにつながる大谷地区では、銀生産の様子についてさらなる調査を進めるとともに、石見銀山学習の充実、石見銀山学概説書の刊行等、多くの方々に世界遺産としての価値と理解が深まるよう取り組みを進めてまいります。